

令和5年度「ベストプラクティス企業」訪問・意見交換 ～ 株式会社赤田運輸産業の取組について～

目的・要旨

厚生労働省では、毎年11月を「過労死等防止啓発月間」と定め、過重労働解消に向けた気運の醸成のため、岡山労働局・各労働基準監督署で周知・啓発の取組などを実施しています。

岡山労働局では、この月間の一環として実施している「過重労働解消キャンペーン」の取組の一つとして、2024年4月の時間外労働の上限規制の適用に向けて、運送業において働きやすい職場づくりや長時間労働削減に積極的に取り組んでいる「ベストプラクティス企業」を訪問し意見交換を行い、こうした企業を広く地域に紹介して、他の企業においても参考にしていただきたいとの趣旨で実施しました。

今年で8回目となるベストプラクティス企業訪問・意見交換は、岡山労働局長（成毛 節）が労働時間削減などに積極的に取り組んでいる株式会社赤田運輸産業を訪問し意見交換を行いました。

訪問日 令和5年11月30日(木)
訪問企業 株式会社 赤田運輸産業



本社所在地 岡山県笠岡市港町1-14
代表者 代表取締役会長 赤田 博文
代表取締役社長 赤田 健
創業 昭和36年(1961年)4月
資本金 1,000万円
従業員数 48名(男性38名、女性10名)
(うち、トラックドライバー30名
(男性28名、女性2名))
業務内容 一般貨物自動車運送事業等

取組内容 「中小運送会社が協力して実施する混載配送の全国ネットワークシステム による運行効率の向上と労働環境の改善」

路線便での出荷が難しいとされる長尺物、重量物、小口荷物などの定形外荷物を混載する全国的な混載配送システムを、他の運送会社と提携して実現。全国11拠点のうち中国四国エリアを担当し、近隣拠点間の幹線輸送とエリア内の配送に特化することで、長時間労働を削減。原則日帰り運行とするなど労働環境改善により、人材確保や定着につながった。混在配送により積載率が向上し、効率的な運行が可能となり、二酸化炭素の排出削減にもつながった。



Q 長時間労働削減に取り組むようになったきっかけは、何かありますか？

A 私自身(赤田社長)がトラックドライバーとして長時間労働などを経験しました。特に長距離輸送のドライバーの勤務は肉体的にも精神的にも厳しく、長く続けることは難しいと感じましたので、この状況を改善したい、より良い労働環境を作りたいと思ったことです。



Q 混載配送システムを他の運送会社と提携して行うことによるメリットは何でしょうか？

A 近隣拠点の大阪と福岡の間の幹線輸送と中国四国エリア内の配送に特化することで、長距離輸送に伴う長時間労働がなくなり、労働時間の削減につながりました。
さらに、原則日帰り運行とすることで人材の確保や定着にもつながり、他業種からの入社も多くなっています。お互いに協力しながら働く環境を整えていますので、男性ドライバーが育児休業を取得した実績もあります。



赤田健 社長

赤田博文 会長

貨物追跡システムにより、リアルタイムで荷の場所が把握できます。緊急時の素早い対応が可能です。



成毛節 局長



基本的には一人で運転し配送する業務ですが

Q 荷主との関係はいかがでしょうか？

A 複数の荷主の荷を混載して輸送することで積載率が向上し、効率的な運行ができるようになりました。それにより、収益アップや二酸化炭素の排出削減にもつながり、さらに、荷主の方にとってもコストダウンとなっています。また、この本社拠点を配送の発着地とすることで、荷待ち時間を短縮することにもつながっています。



Q 荷役作業において、作業しやすいよう取り組まれている点はありますか？

A 本社に全天候型の荷捌き場を建設(令和5年1月から本格稼働)しました。大型トラックのウイングを広げて複数台が同時に作業でき、雨天時のドライバーの荷の取扱いや倉庫作業員の作業性が大幅に向上しました。

